

5月9日

第1回探究的な学習の在り方に関する研究推進地域連絡協議会(県)

初めて、22市町の推進リーダーが集まったの研修。出張は移動時間もかかって大変なこともありますが、直接会って話をするので得たものの方が多かったです。

さて、今年度の事業ですが...2年目は「実践と検証」の年。そして、キーワードは「本物の探究」。昨年度後半から、奈須先生や藤本先生の講演等を聞くことで、児童生徒の求めを大切にしていこうことや、先生があまり引っ張りすぎず児童生徒に少し任せてみることなど、なんとなく分かってきたような雰囲気になっているかな？と感じました。

今回の講演は早稲田大学 藤井千春教授でした。

「子どもが中心にいる探究とその構想」

—「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて—

★協働的探究における教師の役割

子どもたちの学びのファシリテーター

支援者 伴走者

- ①言わせる,盛り上げる,意欲を高める。
- ②対立させる, 課題を設定させる。
- ③大切な点で立ち止まらせ,考えさせる。
- ④価値づけて,自信を持たせる。

立ち止まりポイント!

★「主体的・対話的で深い学び」が成立するための条件

主体的な学び

「自分の言葉」で語り、一緒に考えて「自分の言葉」で応答し、みんなで考えを発展させて「最適解」の構築をめざす

協働的探究

対話的な学び

深い学び

★子どもを中心にした授業研究

研究授業 子どもが学ぶ姿を観察する。

協議会 ☆自分が発見した子どもの具体的な言動についてどのような「よさ・成長可能性」の表れと感じたかを自分の言葉で語り合う。
☆その子の「よさ・成長・可能性」さらに実現する「次の支援」について考え合う。

<まとめ>

- ・自分の言葉で語り,聞き合わさせる。
- ・教師は、ファシリテーター、コーディネーター、サポーターとなる。
- ・子どもの気もちを言わせてしっかり聞く。
- ・子どもを育てることを目的とした校内研究とする。
- ・子どもについて語り合える同僚性を構築する。



藤井先生のお話を聴いて、私たちが取り組んでいることは間違っていないんだと少し安心しました。